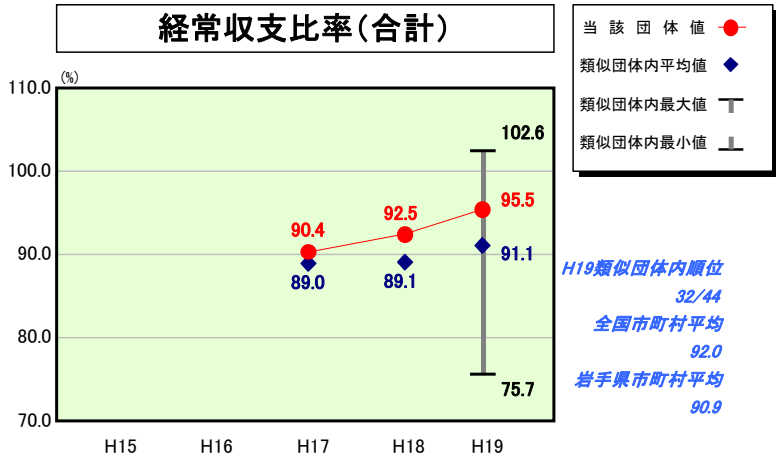


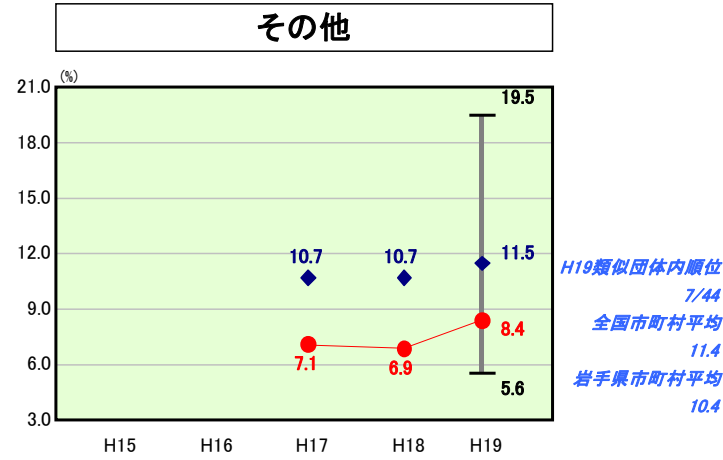
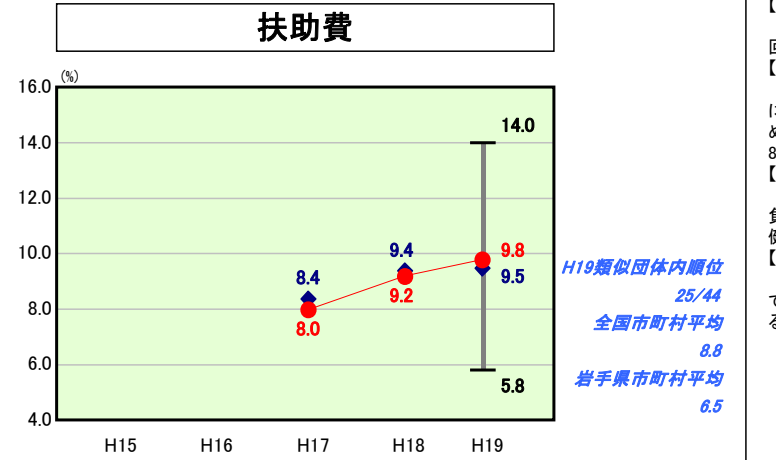
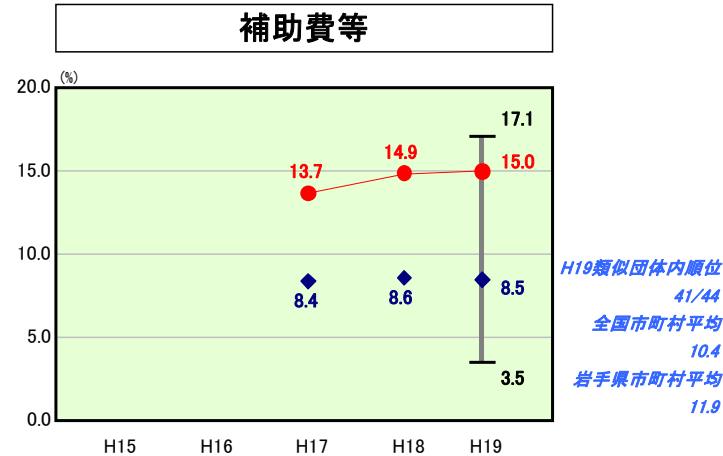
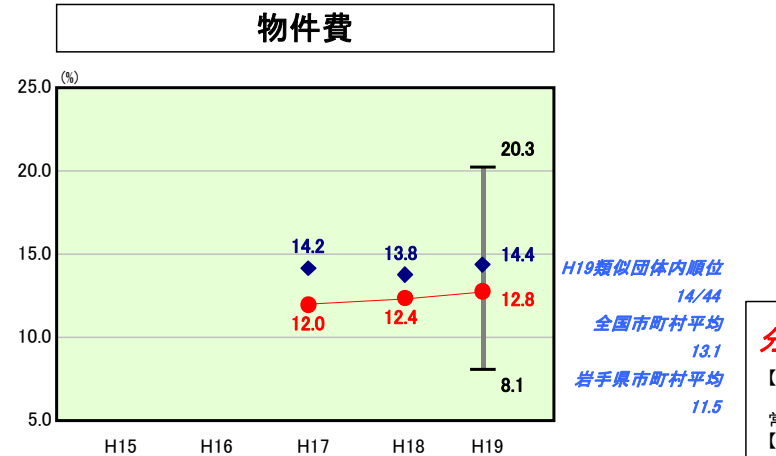
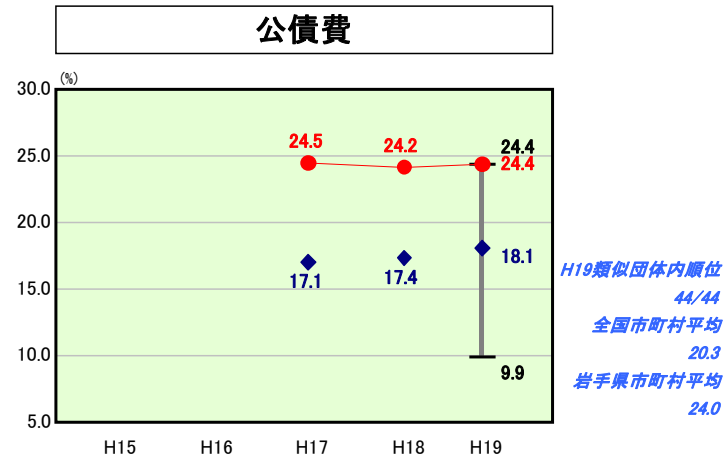
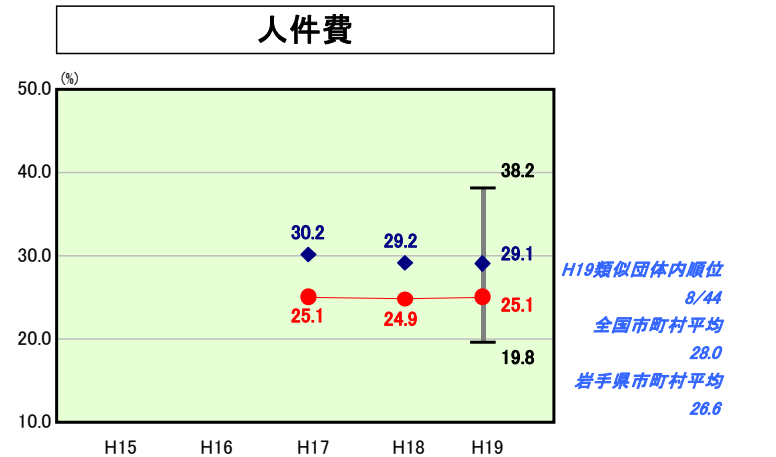
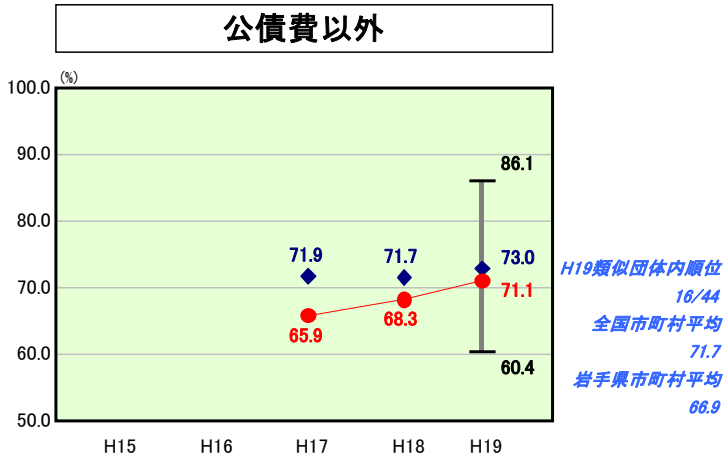
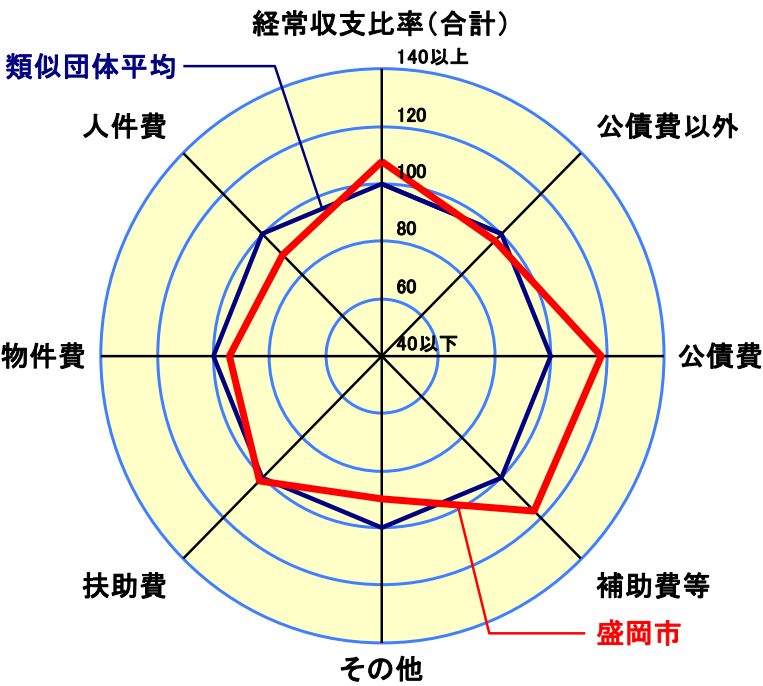
歳出比較分析表(平成19年度普通会計決算)

岩手県 盛岡市

経常収支比率の分析



人口	292,834 人(H20.3.31現在)
面積	886.47 km ²
歳入総額	98,397,994 千円
歳出総額	96,952,800 千円
実質収支	1,314,753 千円



- ※ 1 本レーダーチャートは、当該団体と類似団体平均値より算出した偏差値をもとにチャート化したものである。(偏差値は平均を100としている。)
- 2 当該団体の八角形が平均値の八角形より内側にあるほど、歳出抑制等により財政構造に弾力性があることを示している。
- 3 類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。

分析欄

【人件費】指定管理者制度の導入による委託化定員適正化計画の取組みなどにより、類似団体平均と比較すると、人件費に係る経常収支比率は低くなっている。第三次定員適正化計画(H18～22)に基づき引き続き人件費の削減に努める。

【物件費】行政評価に基づく事務事業見直しにより事業費の縮減に務め、類似団体平均を下回っている状況にある。引き続き平成18年度決算の水準を基本に抑制的に措置することとする。

【扶助費】生活保護費、障害者給付費、支給月額改正に伴う児童手当の増により前年度比6.0%増となっており、類似団体平均を上回っている状況にある。資格審査等の適正化をさらに進めることにより急激な上昇傾向を抑制するよう努める。

【公債費】平成4～10年度に行った大規模施設の建設、区画整理等の都市計画事業への充当債に係る償還が平成16年度をピークに若干減ったものの、充当一般財源が150億円規模であることが、経常収支比率を高くしている要因となっている。そのため、「第二次行財政構造改革の方針及び実施計画」に基づき、予算編成に当たっては「毎年度の新規発行額を予算総額の8%以内(臨時財政対策債を除く)かつ元金償還額以内」に抑制し、残高縮減に努める。

【補助費等】下水道事業について、平成17年度から地方公営企業法の財務規定等を適用して運営しており、当該事業会計に対する負担金が含まれているため、類似団体平均を上回っている。下水道事業については、中期財政収支計画を策定し、経営の健全化を図るとともに、更なる経営の合理化、健全化を推進するため、上水道との組織統合を検討している。

【その他】類似団体平均を下回っているが、前年度比1.5%増加しており、その主な要因は介護保険費特別会計への繰出金の増加である。要介護認定の適正化、介護予防事業の推進等給付費適正化をさらに推進することにより急激な上昇傾向を抑制するよう努める。